

中学校部活動の地域移行について（検討経過）

三朝町教育委員会 社会教育課

1. 国の動き

国では、「生徒にとって望ましい持続可能な部活動」と「学校の働き方改革の実現」に向けて、今後の部活動のあり方を検討していく必要があるとして、令和5年度から令和7年度までの3年間にかけて、休日の部活動から段階的に地域移行するよう提言がなされています。

2. 本町の取り組み

町では、令和5年6月に学識経験者、学校代表、小中PTA代表、地域スポーツ団体代表者で組織する「三朝町部活動地域移行検討委員会」を設置し、国が示す公立中学校の部活動の段階的な地域移行の方向性を踏まえ、本町の中学生にとってふさわしいスポーツ・文化活動のあり方について検討しています。

3. 検討経過

期日	内 容	備 考
R4.5	部活動地域移行にかかるアンケート調査を実施	対象：保護者、生徒、教員
R4.6	保護者向け説明会を実施	アンケート結果、課題等
R5.1	検討状況について小中学校保護者へ報告	書面通知
R5.6	三朝町部活動地域移行検討委員会を設置	委員9名

会議の詳細は町HPに掲載

《第1回》

- 日時 令和5年6月28日（水） 午後6時30分～（場所：三朝町役場）
- 内容 (1) 部活動地域移行にかかるこれまでの経過と現状について
(2) 意見交換

《第2回》

- 日時 令和5年10月17日（火） 午後7時～（場所：三朝町役場）
- 内容 (1) 鳥取県公立中学校における部活動の地域連携・地域移行推進計画について
(2) 県担当課（体育保健課）を交えた意見交換

《第3回》

- 日時 令和6年2月20日（火） 午後7時～（場所：三朝町役場）
- 内容 (1) 県内市町村の検討状況について
(2) 本町で想定される課題の洗い出しと整理について（ワークショップ実施）
※ワークショップのとりまとめ結果は裏面のとおり

4. 検討状況

- 部活動ではなく「スポーツ・文化芸術活動を楽しむ土曜日」の実現むけた検討を行う。
- 部活動指導員と外部指導者の人材発掘にむけた制度設計を進める。
- 休日の部活動のニーズ調査、町としての方針を検討する。 等

5. 今後の検討事項

- (1) 町内のスポーツ・文化芸術関係団体への意識調査
- (2) 本町における今後の方針について協議検討（部活動地域移行推進計画の策定）
- (3) 受皿候補団体の判断基準、財政支援制度、町内人材バンク制度の設計 等

以上

ワークシート(本町で想定される課題の洗い出しと整理)

学校現場の課題

- ・平日と休日で指導者が異なる場合の対応で業務が増えないか
- ・文化部の活動はどうするのか
- ・練習試合を休日に組みたい場合はどうなるのか
- ・指導者と顧問のコミュニケーション機会の確保
- ・土日に試合を組めば見に行きたいが…
- ・部員数の減少による活動の制限

実現のための手法・アイデア出し

- ・休日の指導者の関係で、段階的に教員の参加を減らしてはどうか
- ・月一回、土曜日に部活動とは別物で文化スポーツ活動の機会を設けてはどうか
- ・2～3つの合同部活動なら、各校の担当者で週変わりで対応すれば負担が減るのではないか
- ※ただし、その場に部活の指導員や外部指導者がいると、調整が難しくなったケースあり

指導者(外部含む)の課題

- ・指導者の人材不足のや確保の問題
- ・対応できる競技が限定
- ・指導者への謝金(財源確保、基準が不明)
- ・活動に携わる際のリスク・保険の対策
- ・勤務時間と指導時間との兼ね合い
- ・指導者に求められる資質や資格
- ・休日の指導方針(中学生が混乱する)
- ※平日の部活動との指導或いは活動方針の擦り合わせが必要
- ※ビジョン・目標・指導理念の設定
- ・時間、場所等の変更に係る学校との情報共有の手法(マチコミとか?)
- ・部活動の指導について関心が低い

実現のための手法・アイデア出し

- ・町内の人材バンクを作る必要がある
- ・例えばバイオリン美術館等、指導できる環境、指導者がいる団体から順次、協力を依頼してはどうか
- ・謝金や保険・補償についての指針を示してほしい

生徒・保護者の課題

- ・活動資金のつくり方
- ※全額保護者負担なのか町負担なのか
- ・施設利用料、指導者への指導料等の費用負担
- ・活動場所でのスポ少、体協等との使用時間の調整
- ・チーム競技の場合、他の町との合同練習をする時間、場所、指導者
- ・合同部活動の場合の移動手段、会場
- ・土日の移動手段がなければ参加できない? (町支援バスは利用可?)
- ・中体連の大会参加条件
- ※クラブチームも参加できる点

実現のための手法・アイデア出し

- ・休日の部活動を学校でしたいと思ってる生徒が今現在でどのくらいいるのか
- ・目標が高い生徒はクラブチームへ行くだろうし、強いチームに憧れがあって、それをステータスと感じている生徒も多いことから、休日の部活動ニーズが少ないのであれば、休日の部活動は行わない

受皿候補団体の課題

- ・受皿団体の発掘・把握の手法
- ・受皿団体の選定方法(適正かどうかの判断基準)
- ・どの種目、競技が対応可能なのか不明
- ・休日の活動が部活動なのか否かの判断が曖昧(休日は部活動ではない?)
- ・生徒・保護者が希望する土日の活動と対応可能な受皿とのすり合わせをどうするのか?
- ・生徒の受入に係る経費負担の問題

実現のための手法・アイデア出し

- ・文化活動も含めて幅広く、受皿候補団体としての協力意向調査を実施
- ・受皿団体としての適性度の判断基準等の制度設計
- ・土日は地域活動という観点で、中学生が地域に出て様々な活動をしてはどうか
- ・受皿がない活動については、土日は活動しない方針とする
- ・休日は、学校の先生は関与せず、外部指導者をお願いする方針にする
- ・受皿団体についても、いわゆる活動の広がりが生れることになるので、そのための財政支援をする必要がある